

背骨(BackBone、)は人の意識を変える、だから大切！

NHK スペシャル人体～神秘の巨大ネットワークをご覧いただいた方、たくさんいらっしゃると思います。人体の細胞は、60 キログラムの体重に 60 兆の細胞があり、ちょっと昔までは脳から臓器や骨に指令が送られていると考えられていました。ところが、最近の研究では臓器や骨の細胞自体が指令を送っているのだということがわかって来ました。(なんとなくうすうすわかっていたような気がします・・・)人体に取って最も大切な背骨、その重要さを考えてみたいと思います。以下は Cymosology(宇宙呼吸概論)からの背骨と意識に関する考察です。

背骨のない動物には、意識はありません。
意識がないということは、その動物自身が自分が何者か判っていないということです。背中を軸に、左右に神経が膨大な量で走っています。背筋にゆがみがおこると、それが圧迫され脳に指令が伝わらなくなり、反応が弱くなります。生きる目的や方法論に、最短距離で近づけなくなるのです。方向が定まらなくなるのです。背骨というのがそれ程大切なものだということをよく判って生きている人は、意外に少ないようです。

私達が人類として生きようになって、50 万年といわれます。猿だった時代、私達は四本足で歩いていました。それがどうして二本足であるくようになったのかこれは謎です。一説によると、月が極端に地球から離れたのを見て驚いて猿は一斉に立ち上がったのだという説があります。月は宇宙の膨張にもなって年間 3cm ずつ地球から離れています。
それが急激に何万kmも急に離れたのだとしたら月の大きさが急激に小さくなるのですから驚くのも無理はありません。(これはあくまでも一説ですが・・・)

とにかく立つことによって人間の脳は大きくなりました。下半身の上に上半身が乗るようになって背骨というのが非常に大切になっていきました。背骨がしっかりしているかどうかで、人間の質が決まる位、背骨が軸になっていきました。

二本足で立って以来、人間は物を持ち上げることができるようになりました。腕に力がでてきたのです。手に石鎚を持てるようになったのです。それは、人間に道具をつくる知恵を生みました。その道具を使いこなす指令を脳と結ぶのが、実は背骨なのです。背筋力というパワーがないと重い道具は使えないのです。これは武器を扱う能力にもつながります。重い剣を持って戦うには、背筋力の強さが勝負を分けたのです。背筋力の強化は、背骨を護る筋肉を育てました。文武両道というのは、剣道の練習による背骨筋の強化が背骨を護り、背骨を伝わって脳に明快なメッセージが伝わり、頭脳も明晰になっているのです。逆に、背中に力のない人は、意識の力も弱く中枢神経のコントロールスピードはつかないのです。

1969年にNASAが始めたエアロビクス運動は、体内の有酸素運動の強化が目的でしたが、合わせて自己の治癒能力向上のムーブメントとして、フィットネスダンスとジムを生み人体の背筋力の強化をもカリキュラム化したのです。30年後、フィットネスは日常生活に定着しました。東洋の健康法を母体とした、アメリカ西海岸から生まれたフィットネスブームは母体である東洋から気功ブームを呼び起こし、やがてそれらはヒーリングブームへと結実していきました。

背骨は、英語でバックボーンといいます。BackBone、それは人間が生きていく上で何が正しいかを問いかける母体でもあります。そこには文化があります。文化は英語でCULTUREです。CULTUREとはCLTIVATE＝耕作から導かれました。文化とは、耕すことの延長線上に生まれます。歴史とは自らの民族としてのルーツを耕した結果を編集したものです。ルーツを耕さなくなった人々に文化はありません。背骨にはその人の、民族、部族、種族、としての文化が誇りとして凝縮しています。背骨を伸ばすこと、それは自分達の民族の文化をATTITUDE＝姿勢を通してメッセージすることにつながります。背骨を伸ばすことによって神経のラインがスムーズになり、前頭葉に存在する生体マグネタイト、磁性細菌が活発に動きます。そのことが予感力や予知力を高めることにつながるのです。

いかがでしょうか？皆さん、背骨に対する理解がちょっと深まりましたか？背筋をシャキッと伸ばして心と体の意識を覚醒して行きましょう！